

“KANAGAWA” 福祉タイムズ

2004 12 No.637

発行日 2004年（平成16年）12月15日
毎月1回15日発行
発行所 〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
TEL045-311-1423 FAX045-312-6302
http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/
編集発行人 平本邦夫
定価 100円（税・郵送料込）
印刷所 株式会社 神奈川機関紙印刷所
昭和27年1月30日 第三種郵便物認可



「可能性にチャレンジ！」「第2回かもめマラソン大会in三ツ沢」を目指し、養護学校の校庭で練習に励む都留美スポーツクラブの青年がいた。前大会を振り返りながら、(右から)佐藤信二さん「今度は限界ぎりぎりではなくマイペースでベストを尽くしたい」。青木孝人さん「走り終わった時感動した。次はベスト10に入りたい」。北條渉さん「疲れたがやって良かった。次も完走したい」。藤平茂さん「自分との戦いです。記録もそうですが自分も伸ばしたい」と大会への意気込みを語ってくれた。(写真・文 菊地信夫)

あんぐる

九十六歳の母をつい最近見送った。長年共に暮らした母であったので、さぞかし寂しくなるのではと覚悟はしていたが、意外にも親を送るといふ子どもとしての勤めを果たせて、良かったという満足感が残った。

「いらぬ延命はしないで欲しいね」と口癖のように言っていた、母らしい潔い死に方であった。健康保険制度が確立し、国民皆保険となった現在、高齢者のほとんどは病院で死を迎えている。しかしながら、在宅での看取りを望む声もわずかではあるが確実に増えている。一人ひとりが望む最期の過ごし方で看取れること。それはとても幸せなことではないだろうか。何故ならば、私たちは「死」に向かっているからこそ命を大切に、毎日を充実して生きたいと願いながら、命を刻んでいるからである。

在宅での看取りは、なかなか容易なことではない。現状では、様々な事情で施設や病院に委ねざるを得ない場合もあり、ターミナルには医療と介護のケアシステム化の構築が欠かせないことである。

身をもって、在宅での看取りを経験させてくれた母に感謝している。

かまくら地域介護支援機構

副理事長 樽井 彰子

目次……………CONTENTS

- 全国に先駆け職員の研修受講管理システム完成……………2・3
- 児童福祉を考える緊急県民集会開催される……………4
- 「新潟県中越大地震」に対する支援状況……………5
- 民生委員児童委員の一斉改選行われる……………6
- 長寿社会開発センターいきいきはつらつ……………7
- 連載・つながりをもとめて(9)……………10・11